

# 本圏域の救急医療体制の今後

令和8年2月12日（木）

宇部・山陽小野田・美祢  
広域救急医療対策協議会 事務局

# 救急搬送に係る課題の整理

課題	解決にむけて
① 輪番病院としての役割を担える環境づくり	・ 搬送基準も含めたルール化 ・ 下記の課題への対応
② 下り搬送のルール化	・ 転院搬送ルールの共有
③ 高齢者救急の増加に伴う対応の多様化	・ 高齢者の急変時対応手順の標準化 ・ 早め受診の勧め
④ 整形外科的疾患・ 小児外科疾患の搬送	・ 受入可能医療機関一覧の活用

- 令和8年度は解決策を試行しながら、搬送状況等をモニタリング
- 必要に応じて事例検討を行うなど、次の改善に向けた取組を実施
- 輪番体制の再構築を通じて、各病院の役割が徐々に明確化



新たな地域医療構想は、「病床機能」に加え「医療機関機能」に着目  
→ 圏域での各医療機関の役割を整理・明確化し、連携

## 課題① 輪番体制に関する再認識

### 【輪番病院の役割】

- 初期対応のためのオンコール体制の整備
- 必要に応じて受入先（下り搬送）の調整を行い、次の救急搬送に備える。

### 【救急告示病院の役割】

- 専門性を活かした受入やウォークイン対応
- 高齢者施設等の協力医療機関としての役割 → 救急医療への負担軽減

### 【搬送先決定のための手順】（輪番時間帯）

- 搬送先選定の手順
  - ① 「緊急性・専門性・特殊性」により選定
  - ② 優先順位は、専門機関→かかりつけ→病院群輪番制病院  
→サポート病院→二次医療機関→三次医療機関
- ①の段階に「整形外科的疾患」「小児外科」「高齢者救急」の受入可能医療機関リストを作成し、搬送先選定に活用（試行）
- 病診連携病院当直表も活用し、搬送調整を行う。

## 課題② 下り搬送の円滑化

### 【速やかな下り搬送のために】

- ① 救急告示病院は下り搬送受入のために2床の空床確保に努める。
- ② 救急搬送受入後、状態安定が確保された場合にはその状態に応じて適切な転院先を選定し、調整を図る。

## 課題③ 高齢者救急

### 【高齢者救急の対応手順】（搬送要請があった場合）

- ① 搬送基準に沿って、まずは「緊急性・専門性・特殊性」により判断
- ② ①に該当しない場合、かかりつけ医療機関に要請。高齢者入所施設等入所者の場合は、協力医療機関に搬送受入を要請する。
- ③ 協力医療機関あるいは後方支援病院での対応が困難な場合、上記対応医療機関一覧をもとに搬送先を選定する。

### 【高齢者救急の適正化に向けて】

- 高齢者等入所施設は、高齢者に体調の変化があった場合には日中の受診により、症状が軽度なうちに早めの受診を心がけるよう周知する。

### 【高齢者の緊急時対応に関する取組の予定】

- 医療と介護の連携と市民への意識啓発に向けて、下記の取組を進める。
  - ・ 介護等施設・医療機関への研修や意見交換会等の開催
  - ・ 緊急時の対応について共有できるツールの普及
  - ・ ACPに関する普及啓発
  - ・ 介護事業所向け 救急対応ガイドライン（仮称）の作成

## 課題④ 整形・小児外科の受入

### 【搬送基準の試行的運用】

- 整形外科的疾患と小児外科疾患の搬送について、受入可能医療機関一覧により要請する。

# 救急搬送のモニタリング

方法	目的	具体策
病院の応需状況の確認	ファーストタッチ実施状況を検証	毎月の各病院の応需状況を確認し、搬送先選定の適正化につなげる。
受入不能理由調査	搬送受入ができない現状を把握し、対応策につなげる	搬送困難事案について、受入照会した病院に拒否理由の詳細を確認する。
事案検討会	搬送受入先の適切さを検証し、トリアージのスキルの向上、病院機能の明確化を目指す	搬送照会時の状況や受入後の対応状況を、関係診療科医師により事例検討し、より適切な搬送先や転院搬送手順のルールづくりにつなげる。
高齢者の搬送状況分析	高齢者の状態と受入状況を分析し、高齢者救急の体制を強化する	①高齢者施設等からの搬送に関する分析 ②在宅からの搬送に関する分析
予後調査	搬送先選定の適正さを検証し、トリアージスキルの向上、病院機能の明確化を目指す。	救急医療情報システムにおいて、搬送受入病院は、予後状況を必ずシステムに入力する。

## 救急医療に関する今後の目標

- 増加している救急搬送要請の適正化
- 対応可能医療機関に搬送する仕組の試行と見直し
- 資源の集約による効率の良い救急医療体制の構築
- 市民の行動変容を促す啓発